

平成 19 年度第 8 回上田中央地域協議会会議録

日 時 平成 19 年 12 月 13 日（木） 午後 1 時 30 分から午後 5 時
場 所 中央公民館 2 階第 1 会議室
出席委員 金子委員、河野委員、栗俣委員、小林委員、白石委員、田口委員、竹内弘委員、
那須野委員、箱山委員、畠中委員、林委員、前澤委員、三吉委員、山内委員、
山極委員
市側出席 清水都市計画課長、小相沢都市計画課課長補佐、児玉都市計画課主任
浅野まちづくり協働課地域振興政策幹、小宮山まちづくり協働課課長補佐

1 開 会（浅野地域振興政策幹）

2 会長挨拶（林会長）

暮れも押し迫り何かとお忙しい中、ご参加いただきありがとうございます。

本日は、最初に都市計画マスタープランの協議を行います。その後、これまで当協議会として議論してきた中央地域のまちづくり、地域の活性化等について、意見書の取りまとめに向けた検討を進めたいと思います。私共の任期が 3 月までとなっており、任期中には、市長へ意見書を提出できる運びとしたいと考えております。皆さんからお出しいただいた意見を各グループで確認して頂き、新年になりましたら、意見書を作成していきたいと思います。9 つの地域協議会の中で、すでに意見書を提出した協議会もあるとお聞きしております。当協議会もまとめの時期を迎えておりますので、本日は取りまとめに向けた検討をできるだけ進めていきたいと思っておりますので、よろしく願います。

3 会議事項

協議事項

(1) 都市計画マスタープラン「地域別構想」の策定について（継続審議）

（林会長）

都市計画マスタープランについて議題といたします。都市計画課から説明をお願いします。

（清水都市計画課長）

マスタープランにつきましては、今回 3 回目の検討会となります。これまでの委員の皆様のご意見をもとに、地域別構想の素案としてまとめてまいりましたので、ご意見等頂ければと思っております。

今回をもちまして、マスタープランの地域別構想としては、素案のまとめというよう

な形にさせていただきたいと思います。

今後の予定として、地域別構想の内容を庁内の関係する各課において、確認、調整する作業を進めてまいります。その作業に若干時間を頂きまして、来年 2 月頃、再度地域別構想の案をご提示申し上げられればと考えておりますので、よろしく申し上げます。最終的には、来年度まとめていくということで、その際には住民説明会等も開催する予定です。とりあえず今日のご討議をもちまして、素案としてまとめられればと思っておりますので、よろしく願いいたします。

(小相沢都市計画課課長補佐)

本日検討いただく内容につきましては、3 点程ございまして、これまでいただいた意見を取りまとめたものを確認していただくことが 1 点目でございます。2 点目といたしましては、地域として重点を置いて記載していく事項につきましては、ご協議をお願いしたいと思います。地域としてのまちづくり方針や地域の将来像について文章化しまして、冒頭へ掲載していきたいと思います。3 点目としまして、用途地域の見直し、都市計画道路の見直し、地区計画等都市計画制度の見直しの課題の中で、この地域に関するものにつきまして、ご意見をいただきたいと存じます。

(児玉都市計画課主任)

それでは資料のご説明をさせて頂きたいと思います。事前にお配りしました資料 1 をご覧いただきたいと思います。

- 資料 1 「地域別構想に記載する方針について」により説明 -

(林会長)

ただいまの説明の中で、ご質問、ご意見等ございましたらお出してください。

(白石委員)

前回のマスタープランに掲載されていた項目等が相当抜けてしまっている。資料の内容が全てということか。

(小相沢都市計画課課長補佐)

前回のマスタープランと総合計画の地域別構想の中から主な項目を拾い出しまして、記載させていただきました。若干加える点もあるかと思いますが、大きなものについては、概ね拾い出しをさせていただいたと考えております。

(白石委員)

前回のマスタープランは、中央地域と神川地域の 2 通りのプランがあったかと思う。今回は、この 2 地域を総合的に文章化していただいていると認識しておりました。

今回の案では、ほとんどが中央地域についての記載となっており、例えば駅についても、「上田駅を中心とした」という表現になっており、大屋駅、信濃国分寺駅の駅名の記載が無くなってしまっている。

神川が上田市と合併してから 50 年以上経過しております。支所も置かず、住民が中央と一体化していくという期待を込めながら合併したところでありますが、その結果 50 年経っても、公共施設と言え、神川地区公民館が 1 つあるだけで、あとは学校のみということは、先日も申し上げたとおりであります。

今回の案を見ると、旧マスタープランに掲載されていた内容も無くなってしまっている。通学路の問題では、神川地区の子どもが 1 中へ通う通学路がないので整備をお願いしたいという点についても、「通学路の安全確保などを図るため県道上田小諸線の整備を促進」という記載になっており、むしろ東小学校から通う子どものための通学路の整備にすり替わってしまっている。具体的に路線名が入っているのは、その部分だけで、「環状道路等の整備」の記載の中で、18 号バイパス、東御市までの先線、152 号線バイパス等の固有名詞が一切記載されていないことからしても、あまりにも簡素化しすぎたのではないかと考えております。

現在中央地域の人口は、3 万 1 千人程だと思うが、神川地域には、その 3 分の 1 の 1 万人の人口があり、そのようなことも踏まえながら、バランスのとれた記載をお願いしたいと思います。集会施設についても、均衡を図った中で、内容の記載をお願いしたいということもあったわけですが、それも抜けてしまっており、もう少し噛み砕いた形で記載していただかないと、今までの会議が無駄になってしまうところである。

(小宮山まちづくり協働課課長補佐)

本日欠席の神川地区の竹内英一委員さんからファックスが寄せられまして、ご意見がございました。中央地域の将来像について、4 点ほどいただいておりますので、ご覧いただきたいと思っております。

(清水都市計画課長)

大屋、国分寺の駅ですとか、道路の関係では、バイパスについても重点的に進めておりますので、神川地区の施策につきましても、できるだけ付け加えるように進めてまいります。

(白石委員)

将来こうしたいという一つのビジョンですから、記載する項目の中には、できないものも出てくるかもしれないが、中央地域としては、こういうことを目指すということを掲げることが大事だと思います。

(清水都市計画課長)

庁内の各課と調整いたしまして、できるだけ記載していきたい。特にバイパスとしなの鉄道の駅の関係につきましても、是非記載していきたいと思っております。

(林会長)

海野宿と大屋駅を結ぶ道路の拡幅整備については、どうでしょうか。

(白石委員)

東御市の西海野区、本海野区のエリアと大屋自治会のエリア内の道路が、今年の春頃

から交通渋滞が生じている。そこで、海野の住民の皆さんは、バイパスを進めたいということであり、また大屋自治会としては、152号線バイパスを含めた大屋駅周辺の整備を進めたいという話がかみ合いまして、道路整備推進協議会といった組織を立ち上げつつあります。関係機関へもお願いする中で、整備推進の働きかけを始めております。

先日も建設事務所へお願いに行ったところ、地元からこうした要望が上がってくれば、152号線バイパスの整備についても形ができて、18号線バイパスの整備推進の弾みにもなっていくのではないかとのお話もいただきました。

今回のマスタープランにも、152号バイパス、18号バイパスの整備推進について、是非記載していただき、市としても重要課題であることを明確にしていてもらいたい。

バイパスの整備が進めば、海野からは田中駅より大屋駅の方が近いこともあり、利用者は大屋駅を使うことが多くなっており、大屋駅周辺のにぎわいにもつながると思う。

(清水都市計画課長)

上田市の中でも大屋駅付近の渋滞は、大きな課題となっている。152号バイパスについては、市としても力を入れて県に依頼していきたいと思っております。「大屋駅周辺の道路整備」という形で、記載していきたいと思えます。

(小相沢都市計画課課長補佐)

続きまして、将来像について、ご検討をお願いいたします。

(児玉都市計画課主任)

資料1の1ページをご覧くださいと思います。「将来像について」掲載させていただきました。

- 資料1「将来像について」 説明 -

(清水都市計画課長)

先程事務局から紹介がありましたように、竹内英一委員さんから将来像についてファックスでご意見をいただいております。白石委員からもご意見を頂きましたが、今回中央地域と神川地域を合わせた形で、上田中央地域の将来像ということになるわけですが、竹内委員さんもそのあたりを懸念されておまして、一体感のあるものを表現していったらどうかというご意見だと思いますので、参考にさせていただきたいと思っております。

(那須野委員)

私共主婦の立場からするとなかなか理解し難い点だが、例えば紺屋町にある大きなマンションについても、建設が決定してから、地域で反対署名運動が起きるという状況がある。今度緑ヶ丘の山洋電気が豊殿へ出るということで、近隣住民にとっては、跡地にどんな施設がくるのか心配である。

こういったものが決まる前に、近隣住民に説明をしてもらい、話し合いの機会がもて

ればいいと思う。近隣住民への説明が適切に行われることが大切である。

(清水都市計画課長)

山洋電気に関しては、現在も工場が稼働しており、土地も会社所有の民有地である。会社としてもまだ今後の方向性を示していない段階である。いずれ市へ相談があると思う。

JT 跡地も用途地域として工業地域、準工業地域としてあるので、その用途地域のままで規制があり、新たなまちづくりをしていくためどうしても足かせになるということがある。山洋電気の工場も工業地域指定となっているので、工業地域以外のものを進めたいという時には、市へ当然相談があると思われる。

できるだけ市民の皆さんにわかる範囲で、広くお伝えていくことは重要だと考えている。

(那須野委員)

後から署名運動が出てきたり、要望を聞くということが多い。

(清水都市計画課長)

土地は個人の所有であり、経済活動の中で、法律上でできてしまうものもある。市も高さ等についてお願いしていくこともあるが、相手方も商売があることであり、簡単に下げますというようなことにはならない。

中央地区で言えば、旧岡崎ガレージにマンションの計画があり、地元説明会を始めている。北常田にもマンションの計画があり、説明会が始まっているが、市からも高さをもう少し下げてほしいという申し入れはしている。

そんなことを考えていくのが、「ルール作りの検討」という記載にあたる。

(小林副会長)

今の話ですが、我々があまりにも無知であるということである。全て役所頼みだということである。役所も法律上の壁があり、建築基準法上で何の瑕疵もなければ、建てても良いということになる。拒否はできない。我々はそういうことを知らなければいけないし、用途地域がどのように指定されているのか、勉強するのもこの協議会の委員の重要な仕事だと思う。

(白石委員)

資料の案にも「建物の高さや外観など地域にあった建築に対するルールづくりを進める」と記載がありますが、このような記載があれば、規制する条例を制定したらどうですかというふうに進めることができ、こういうことを示しておくのは非常に重要なことと思う。

(河野委員)

用途地域を変更する場合、最低どのくらいの年月が必要になるのか。

(清水都市計画課長)

皆様もご存知のことと思いますが、先日も直接請求があり、用途地区の上に、更に上

乗せで特別用途地区として条例で指定するというような直接請求がありまして、市議会の議決が来週の月曜日に予定されております。

都市計画法に基づいて進めていかなければならないわけですが、公聴会、地元説明会等を行って、このエリアはこう変更したいがどうかということで、市長が考えて、それを受けて事務局が地元へ伺って説明し、ご了解をいただいたことを確認したうえで、素案を作成し、再度公聴会を開催し、都市計画審議会を経て、再度縦覧期間を設け、意見をいただきながら、最後都市計画審議会を開催して、決定していくという手順になっている。

通常ですと、半年くらいは必要になる。ただそのエリアをどういう地域にしていくとか、自治会長さん方等のご意見をいただき案を作成するまでに、相当の期間が必要になる。それは、案件ごとに差が出てくる。

(小相沢都市計画課課長補佐)

3点目の用途地域の見直し等の課題について簡単に説明させていただきます。

- 資料2 説明 -

- 1 中央地域の都市計画状況図
- 2 建物種類の現況図
- 3 建物新築状況 平成13年から17年
- 4 高層建築物の立地状況
- 5 平成13～17年 建物の新築状況図
- 6 建物種類の現況図
- 7 地区計画参考図

- 資料3 説明 -

都市計画道路の整備状況

(林会長)

ご質問等ございましたらお出してください。

(三吉委員)

地域別構想の箇条書きした案を頂いて、ただいまこの用途地域等の図面を頂いたが、この2つの整合性を図ったものを最終的に作成していくということなのか。

(清水都市計画課長)

用途地域見直し、都市計画道路の見直し等は、全体で考えなくてはいけないことですが、図面については、自分の地域はどうなっているか確認いただくための資料とお考えいただきたい。

具体的に用途地域等の変更のご要望があれば、地域別構想へ記載していくことも可能

であります。

(林会長)

都市計画マスタープランにつきましては、以上で終了といたします。

休憩

審議事項(グループ審議)

(1) 「地域まちづくり方針」に基づく中心市街地活性化の推進についての中間報告に向けた審議(第3回意見交換)

(浅野地域振興政策幹)

グループ討議に入る前に若干ご説明申し上げますが、前回商店、商品、品物の充実等個人的な意見を述べられましたが、このことについては、ある程度まとまった意見として共通認識を得られたら、こちらから商工課等を通して、商店街の皆さんにご報告するというようなことで考えておりますので、よろしくをお願いします。

今回グループ討議を進めていただきたい内容といたしましては、市民として中心市街地の活性化のために何ができるのだろうか、市民だけでは難しいが、市民と行政と一緒に何ができるとか、市民と商店街と一緒に何ができるとか、あるいは三者一体に何ができるとかということを協議して考えていただきたいと思います。

市民の力であるというのは、そう多くはないとは思いますが、皆さんの力でできることが必ずあると思うわけです。そのことについて、協議していただきたいということです。

後ほど、グループごとに発表をお願いいたします。商店主の方もいらっしゃいますが、まず市民の立場で何ができるかを考えてください。

それでは、班(3班)ごとに分かれて、グループ討議をお願いします。

- グループ審議 -

(浅野地域振興政策幹)

1班から順次発表をお願いいたします。

(栗俣委員)

それでは1班から発表させていただきます。一番のメインは小林副会長さんの構想であります上田先人館を創設したいということで、これを是非地域協議会の名において決めていただきたいということでございます。

具体的には、石井鶴三美術館が空くというお話ですので、この建物を再利用したらどうかということでもあります。当面再利用が可能になれば、並行してということになるかと思いますが、民生委員制度の創設に功労のあった小川滋次郎氏の業績を全国に発信

し、全国で 22 万人の民生委員、関係者を含めれば 27 万人の方々に上田を注目していただだけ働きかけていけばどうかと思います。3 年に一度は研修を行うことを義務づけられているようですので、研修地として上田を指定していただき、大勢の方々に上田を知っていただければと考えます。そうすることにより、口コミで、更に大勢の皆様を訪れていただけるのではないかと思います。

それから、本格的な物産館を建設したらどうかと思います。新築するとなれば、非常にお金がかかるということで、二中と清明小が現在空洞化しておりますので、教育特区の申請を是非行っていただき、小中一貫の教育が実現できるよう働きかけをこの地域協議会の名において、決議したらどうかと考えます。そして、空いた二中を改造して、物産館として利用していったらどうかと考えます。校庭を駐車場にすれば、相当大型バスも駐車できると思います。これからは是非そういったユニークな発想で、本気で実現に向けて考えていく時期ではなからうかと思ひます。最初からだめだだめだと言っていたのでは、なかなか市の活性化には結びついていかないのではないかと思います。

そして、小中一貫教育の場では、是非先人の偉大な足跡について、小中学生に教育をしていただければと思ひます。小川滋次郎、三吉慎蔵、山極勝三郎をはじめ是非偉人の伝記を教育現場でもカリキュラムに組み込んで進めていただきたいと思ひます。

次に JR 上田駅の乗降客数が、佐久平駅とほぼ同数になっている状況があります。この状況をなんとか打開して、上田地域の方が人口が多いわけですから、JR と市民の代表による組織を作って、定期的に協議していく場を設けたらどうかと考えます。そして、JR に資金を出していただき、乗降客数を増やしていきたいということでもあります。

上田城跡の整備ですが、早急に着手していただきたいと思ひます。上田城跡が未整備で、特に公園内に市民会館があることが、せっかく大手門も整備されたところで、少し違和感を感じるのは、誰しも同感なことと思ひます。是非整備を進めていただきたい。

もう一つは現在生涯楽習（市長が学ぶではなく楽しいという字を充てて欲しいという要望で）が、現在 3 年目を迎えております。約 800 名の受講生がおり、50 講座、800 名くらいまで発展してきているわけですが、今年は 100 講座、1000 人以上を目指して取り組んでおります。60 講座くらいは、既に申し込みがあるわけですが、小林副会長さんが適任ではないかと思ひますが、125 人の業績もかなり図書館でお調べになって、先程もかなりデータをお示しになったわけですが、是非講師になっていただければありがたいと思ひます。とにかく、ありとあらゆる機会を捉えて PR を兼ねながら、市民の啓発を図っていくということも大事だろうと思ひます。

最後に今国分寺の史跡公園が整備されて資料館があるわけですが、国府があったということは間違いのないわけですが、未だもってその跡地が特定できていないという実情です。だいたい国分寺跡地から 2 キロくらいの圏内に国府が建てられたということでもあります。国府が特定できれば、神川地区の発展、集客という面でも、非常にメリットのあることになるのではないかと思いますので、国府の所在地を特定するために、専門家を

動員結集して是非力を入れて進めていただきたいということでございます。主なところを申し上げます。以上です。

(畠中委員)

私共 2 班のグループは、商店主とそれから主婦の皆様から意見が出続けましたので、なかなか上手にまとめることができずに、ニュアンスをお伝えするだけになってしまうかと思えます。

一応 3 つの大きな意見集約になりました。特にマンション、空き店舗に関しましては、現状もお話させていただきながら、中心市街地のこの辺は、特にマンションができたりするわりには、食品の確保が難しいということで、食品スーパーですとか、日用品を買い回れるものをきちんと整備してもらえないかというのが要望です。

食べ物に関しまして、おいしいラーメン屋さんが少ないとか、揚げ物とか、お惣菜のお店がもっと欲しいとか、生鮮のお店、コーヒーのお店など欲しいというようなことが出されました。特にまちなかの拠点づくりに関しまして、やはり歩いている中でこんな店がある、こんな場所があるということで、回遊性の中で生まれるのではないかとということでございますので、歩いても楽しく見れるお店ということで、回遊性の拠点づくりのようなものがあつた方がいいのではないかと、ということでございます。

それから空き店舗の利用、前から出されていることですが、人が集まる拠点づくり、昔ほていやという大きなシンボルになる店があつた頃のように、やはり遊びの空間とか、そういったものも商店街の中に設けていただきたいという話が出されました。

中心部では、マンションの建設計画等が出されており、その中で、ただのマンションだけではなく、なるべく複合型の拠点づくりを商店街として、マンションの業者さんをお願いしたりしていったらどうかということであります。平林堂さんの横の開いている土地も、あのままにしておくわけにはいかないと思えますので、こういったことも含めて市の協力をいただきながら、開発していったらどうかという意見も出されました。

小林副会長さんの方でご提案いただいた先人館のお話ですが、知っているようで知らない上田の歴史というものと、たまたま池波正太郎真田太平記館は、喫茶店を経営させていただきながら、集客をということで取り組んでいるわけですが、非常に今歴史、文化がクローズアップされて、市民の皆様の声が、商店街の通りに生きてくるような環境づくりになっているのではないかなと感じているので、中心のエリアは、商店街だけではなくて、生活者のエリアとして、もちろん観光客の皆さんですとか、いろいろな局面の事業というものを考えて開発していったらどうか、という意見が出ました。

(山極委員)

第 3 班も多くの意見が出たものですから、まとめきれずに多少私の主観も入れてしまったので、その点をご容赦いただきたいと思います。

まず第 1 点が、観光ガイドの育成ということであります。これは市民も参加できると

ということで、とくにこの協議会に参加して、すごく勉強になったという声もあったりしますので、市民が参加して観光客の方から聞かれた時に、おいしい店だとかということ PR できるような勉強を更に重ねていったらどうかと思います。特に、安芸の宮島で中学生が地域に誇りを持って、ボランティアで案内をしているという話が出ましたので、そんな形でもいいかなというふうに思います。それからタクシー業者さんの観光案内の能力を高めるような教育制度、コンベンション協会でテキストを作っていたり、あるいは商工会議所に開催していただいたりして、そういうことも進めてもらいたいという話が出ました。

2 番目に、特に海野町のやおふくさんの空き店舗を念頭に入れた話ですが、今農業の直売所がキーワードになっていますので、地域の農家の方、農業と商業の連携を図るために、あそこに市が介在して調整をしていただいて、間口の小さいいくつにも分けた直売所を設けて、利用していただいた方から使用料を徴収するということで、生鮮産品や手作りパンなど販売所を設けたらどうかと、地元振興組合ありますから、事務局になっていただいて利用を進めたらどうかという話がありました。

3 番目は、まちなか居住の推進ということで、海野町で今までは真田から子供達を呼んでみこしを担いでいたのが、あそこにマンションが出来たお陰で、今年のおみこしは、地元子供達で間に合ったということで、少しずつ推進しているという状況で、これを一層進めて、ただし課題として、地域のコミュニティとの受け入れ態勢を整備する必要があるということです。昔はおまわりさんが各地区を回って、商店に寄ってお茶を飲んでいったということで、防災・防犯の面からも交流の場所を、各地区に作る必要があるのではないかという話が出ました。

4 番目ですが、物産館を中心部へということで、中心部にやはり核となる施設が欲しいということが一つと、それから観光客が上田に立ち寄っても、購買につながらないということで、例えばインターの近くにある物産館のようなものを中心部へもってきて、中心部へ観光客が入ってくるような仕掛けづくりが必要ではないか、という話がございました。

それから 5 番目に公共交通機関の充実ということで、これは市民がなかなか参加できることではないわけですが、市民の公共交通機関の利用を促進するために、公共の交通機関を利用して、中心部へアクセスしたり、歩いて商店へ立ち寄ってもらった方には、商店の方で、サービスを厚くするなどの動機づけになるような仕掛けをしたらどうかということであります。観光客の方が市内を回遊する場合、公共交通機関が充実していないと不安で不案内なまちを回るといのは、難しいのではないかということで、観光客に大いにまち中を利用してもらうためにも、このバス等の充実を図って欲しいといった意見が出ました。

その他いろいろな細かい意見が出たわけですが、集約することが難しかったので、この 5 点で示させていただきました。以上です。

(浅野地域振興政策幹)

ありがとうございました。3班の発表が終わりまして、この点をもう少し聞きたいとかそういうことはございますか。

例えば1班で、非常に大きな計画が出されているわけですが、それでは市民は一体ここで何を協働してできるかということを考えていただきたいと思います。先人館の構想については、我々はこの人の資料集めができますとか、やはりそういう連携が必要だと思います。そういう視点で、少し考えてもらいたいと思います。3班からも出されましたが、物産館も同様であります。その辺を考えなければいけないというふうに思います。JRの関係ですが、乗降客を増やすために、協議会を設けるということで、それで具体的に増加策を練るということですね。

(白石委員)

JRについては、いろいろと話が出た中で、例えば温泉口に一日に数十台の大型バスが立ち寄って、その乗降客は直ちに特急あさまに乗って行ってしまうということで、乗降客は現にいるが、そう方々をもう少し引き止めてという施策ができないだろうかということであります。例えば、駅の前にトイレがありますから、皆さんトイレ行ったらすぐ乗ってくださいというような案内を現実には観光客がやっているが、それでは市としてあまりにも情けないので、JRにも入ってもらって、そこを何とかできないかというような意味合いの中で、そのような話が出ました。

(浅野地域振興政策幹)

皆さん今の現実ご存知ですかね。温泉口に毎日バスが連なって来るということで、主に上高地とか白馬方面へ行くバスが多いと思うわけですが、新幹線で来て降りて、バスに乗って行った方が早いという事情があります。そのお客さん方は、上田駅では実はトイレしか利用しないということで、市はお金を出してるだけという現実があります。

(小林副会長)

水と紙は全部上田市で面倒をみて、そして買い物は無しという現実です。

(白石委員)

せっかく上田へ来てくれるお客さんをもう少しとどめていくことはできないだろうかということでもあります。

(浅野地域振興政策幹)

国府の所在地は、今のところ信大の繊維学部の場所か、国分寺史跡公園の近くか、どちらかと言われています。

第2班は、どこで市民が参加するのか、良く分からなかったわけですがどうでしょうか。発表のあったような店を育てたいということでしょうか。

(田口委員)

せっかく中央商店街があるわけですから、そこへ人を集めようということで、それには、ただ市民だけで考えていっても、円滑に進んでいかないので、商店主ご自身が開発

を考えて、何か一つの方向性を出していただいて、市民が集まって来る場としていただき、そこを拠点として、上田城へ行ったり、名所へ行っていただくことを考えれば、商店街にも人が集まり、利益も期待できるのではと思うところです。

(浅野地域振興政策幹)

お店の魅力で人を集めたいということですね。

(田口委員)

そういう意見です。

(浅野地域振興政策幹)

実際に例えば、上田市以外でこういう素晴らしいお店があるが、誘致してみようかという時に、商店街の受け入れなんかはどうなんですかね。

(田口委員)

その話もグループ討議の中でしたところですが、それは相手のあることだからという話になってしまって、なかなか難しいという話になった。

(浅野地域振興政策幹)

3班の観光ガイドの育成については、ストレートにできる市民参加だと思います。

(山極委員)

宮島で中学生が地域に誇りを持って案内をしているというお話を出していただいたので、それではそういう形が一つになるということで、意見をまとめたところである。

(浅野地域振興政策幹)

現在上田市で、制度として行っているガイドが二通りあります。シルバー人材センターで行っているガイド事業ですが、有料で行われております。もう一つは、観光コンベンション協会が事務局で進めているボランティアガイドの制度です。

どちらも誰でも参加はできるわけですが、それぞれやり方があるようで、非常に硬く正確に伝えなければということと、面白おかしくてもいいよってという部分と両方あり、結構大変な様であります。正確に伝えようと思えば、人様にガイドするということは、大変なことです。

(山極委員)

ガイドするということの他に、例えば子どもたちが地域を誇りに思う、そんな教育も兼ねて行っていることもあるかと思えます。学びにつながるということもあります。

(浅野地域振興政策幹)

入り易い案ですよ。産直販売は、小さい規模ですが、海野町でも行われております。

(山極委員)

一番は、旧やおふくの建物のところを念頭に入れて、あそこを小さなスペースを貸し出して進めていければいいのではないかということで、ただそれを誰が担うのかということが、課題としてあるわけです。行政がまず介在していただいて、地元の振興組合が事務局になって、市民がそこへものを持ち寄って販売する。農業はすごく大事だという

ことで、共に市民同士で参加できるということでもあります。

(浅野地域振興政策幹)

物産館については、1班と同じ意見ですね。

(山極委員)

3番のまちなか居住は、現実に進んできているので、観光や商業の活性化ということ以外に、まちの活性化ということは、住んでる人が住みやすくなってこともあるかと思えます。そういう観点からは、従来から住んでる方々がうまく受け入れて、十分交流ができるということが必要で、お巡りさんの話も例として出たわけです。

(浅野地域振興政策幹)

どうですか皆さん、何かこの辺を聞きたいとか、そういう部分はありますか。

(河野委員)

上田の市街地の中で、観光バスが動いたとして、観光客が見るところはありますか。スポットはありますか。

(浅野地域振興政策幹)

例えば、旧北国街道の街並みがある。

(河野委員)

交通機関を利用して、周遊できるスポットがないような気がいたします。

(林会長)

外部の人が対象ならば、例えば別所とか塩田平は、宣伝されているが、例えば芳泉寺に小松姫の墓があるとか、新田に真田信幸の母の墓があるとか、そういったところを回って歩いてもいいと思う。上田の松平藩の歴代の藩公のお墓がある願行寺など、いろいろとある。

(浅野地域振興政策幹)

実際あるわけですが、おっしゃるのは観光バスで回った時に、ルートとして確立できるかどうかということと、観光バスが入れるような受け入れ態勢ができていないかどうかということがあると思いますね。

(山極委員)

フリーの観光客の話が出たわけですが、移動しやすさというのは難点があって、ちょっと他へ移動してみようという時に、1時間に1本しかないバスを待って、じっと動かずにいるのかということである。ですからアクセスし易さを重視すれば、まちなかを回遊してもらえるのではないかとということでもあります。

(浅野地域振興政策幹)

今の話、市街地に観光バスが乗り入れて、次のスポットにまた観光バスで行くという観光もあると思いますが、どこかに観光バスを置いて、歩いて見てもらう観光もあるわけですね。上田は、歩いて見てもらった方がいいような気がいたします。

(林会長)

柳町あたりは、2、3人のグループで結構歩いている。

(浅野地域振興政策幹)

日帰りで何回も上田へ来るリピーターが増えています。今日は蕎麦だけ食べに来たとかね。いろいろな魅力を小出しにするわけではないが、リピーターに来ていただいて、発見してもらえばいいかなって感じがいたします。

これからまとめていく段階で、先人館も挙がってきました。協議会の意見として、こういうものを要求していきたいというものを挙げる。それと市民参加として、市民協働として、こういうものを進めるべきだというものを挙げてもらうということで、まとめていきたいと思います。

(小宮山まちづくり協働課課長補佐)

今日は時間的に無理ですので、まとめたものを郵送でお送りし、ご意見をいただくような格好にさせていただければと思います。

(浅野地域振興政策幹)

今日のグループ発表を基にして、率直な意見を出していただき、次回の協議会でまとめていきたいと思います。よろしいですかね。

了承

(浅野地域振興政策幹)

そのような形で進めさせていただきます。ありがとうございました。

4 その他

- (1) 上田市地域振興事業基金の活用について
- (2) 「(仮称)わがまち元気いっぱい事業」補助制度(案)について
- (3) 地域協議会からの意見書の提出手続き、及び事務処理について
- (4) 協議会委員の任期満了に伴う次期公募委員の募集について

- 上記4項目について、資料により説明 -

小宮山まちづくり協働課課長補佐

(林会長)

本日の会議は以上で終了といたします。お疲れ様でした。